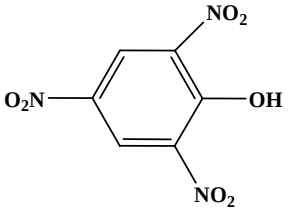
5	CAS 番号：88-89-1	物質名：ピクリン酸

化審法官報告示整理番号：3-823

化管法政令番号：1-244

分子式：$C_6H_3N_3O_7$　　構造式：

分子量：229.10



１. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 1.27×10^{4}mg/L (25℃)、分配係数（1-ｵｸﾀﾉｰﾙ/水）（log Kow）は 1.33、蒸気圧は 7.50×10^{-7} mmHg(=1.00×10^{-4}Pa) (25℃)である。難分解性で高濃縮性ではないと判断されており、また、加水分解性の基をもたない物質とされている。

本物質は化学物質審査規制法第二種監視化学物質及び化学物質排出把握管理促進法（化管法）第一種指定化学物質として指定されている。主な用途、排出源は合成原料（農薬（クロロピクリン）、染料）、花火とされている。平成 13 年における製造(出荷)及び輸入量は 100～1,000t 未満、化管法の製造・輸入量区分は 1,000t である。

---

２. ばく露評価

化管法に基づく平成 15 年度の環境中への総排出量は 0.006t となり、これは全て公共用水域への届出排出量であった。この他、移動量は廃棄物へ 11t であった。届出排出量が報告されている業種は化学工業のみであった。

環境中への排出は水域のみであり、多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合も 99.9%が水域であった。

水生生物に対するばく露を示す水環境中への予測環境中濃度（PEC）は、評価に耐える環境中濃度が得られなかったため設定できなかった。

---

３. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 96 時間 EC_{50} 500,000 µg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* における 48 時間 LC_{50} 85,000 µg/L、魚類ではニジマス *Oncorhynchus mykiss* の 96 時間 LC_{50} 109,600 µg/L、その他の生物ではバージニアガキ *Crassostrea virginica* の 144 時間 EC_{50} 140,400 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC)850 µg/L が得られた。慢性毒性値は、甲殻類オオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 5,000 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 値 50 µg/L が得られた。本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 50 µg/L を採用した。

現時点では評価に耐える十分なデータが得られなかったため、生態リスク評価の判定はできない。本物質については生態リスク評価に向けて環境中の存在状況を優先的に把握する必要性は低いと考えられる。

有害性評価（PNECの根拠）			ｱｾｽﾒﾝﾄ係数	予測無影響濃度 PNEC (μg/L)	ばく露評価		PEC/ PNEC比	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC（μg/L）		
甲殻類	慢性	NOEC　繁殖阻害	100	50	淡水	－	－	×
					海水	－	－	

---

４. 結論

	結論	判定
生態ﾘｽｸ	生態リスク評価の判定はできない。生態リスク評価に向けて環境中の存在状況を優先的に把握する必要性は低いと考えられる。	×

［リスクの判定］　○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない